

令和 8 年度 都立紅葉川高等学校 経営計画

1 目指す学校

文武両道、自主自立の精神を身につけ、たくましく生きる力を育成する学校

スクールポリシー

(1) グラデュエーション・ポリシー

- ① 他者の話をよく聞くとともに、自らの意見を表明し、適切な行動を選択できる人材を育成する。
- ② 敬愛・協力・気概・自律の理念にのっとり、自己の可能性を育成する。
- ③ 周囲と共存・協働し、積極的に人生を切り拓く力を育成する。

(2) カリキュラム・ポリシー

- ① 思考力・判断力・表現力を身につけ、それを伸ばすためにすべての教科の学習に積極的に取り組ませる。
- ② 自ら情報を集め、論理的に考え行動できる力の形成に取り組ませる。
- ③ 社会性と責任をもって互いに尊重しあい、適切にコミュニケーションをとれる力の形成に取り組ませる。

(3) アドミッション・ポリシー

- ① 大学進学への目的意識をしっかりと持ち、高い志望を掲げて努力をする生徒。
- ② 国語・数学・英語・理科・社会の基礎学力があり、さらに深く学ぼうとする生徒。
- ③ 学校生活の規律を守り、広く他人への配慮ができる生徒。
- ④ 部活動、学校行事、ボランティア活動等に積極的に取り組む生徒。

2 中期的目標と方策

(1) 目標

- ① 進路希望を掲げて努力し、目標を達成する力を育成する。
- ② 自ら情報を集め、論理的に考え行動できる力を育成する。
- ③ 社会性と責任感を持ち、自らの規範意識に従って行動する力を育成する。
- ④ 心身を鍛え、困難に立ち向かい、克服していく力を育成する。

(2) 方策

- ① キャリア教育を通し、自己実現に向かって努力をする。
- ② 学習活動を通し、思考力、読解力、文章力、情報収集・活用能力、IT 活用能力を身につける。
- ③ 生活指導を通し、規則を遵守する態度と、豊かな人間性を身につける。
- ④ 特別活動を通し、コミュニケーション能力とリーダーシップを身につける。

3 今年度の取組目標と方策

(1) 学習指導

① 目標

思考力、判断力、表現力、読解力、文章力、情報収集・活用能力を育成し、学力の向上を図る。

② 方策

ア 授業改善

- ア) 主体的、対話的で深い学びをさせる授業を通じて、思考力、判断力、表現力、読解力、文章力、情報収集・活用能力を育成する。
 - ・考えさせる発問、考えさせる課題
 - ・文章や図、表を読み取り、その情報を分析し、まとめ、発表する機会をつくる。
- イ) 英検取得を目標に、英語 4 技能を育成する。その際、外部検定試験実施校の予算を活用して、検定試験を実施する。また、文章検定を 1、2 学年全員に受検させて、国語の読解力や表現力の育成を図る。これにより、受験の筆記試験における基礎力を身につけるとともに、異文化理解とグローバル・コミュニケーション能力の育成を目指す。
- ウ) 校内での教員相互の授業見学を 3 回以上実施、指導教諭の授業公開等に年 1 回以上参加し、他校の優れた授業実践から学ぶ。
- エ) Teams やスマスク端末等を積極的に活用し、効果的かつ効率的に指導を行う人材の育成を目指す。

イ 学力向上

- ア) 模試や外部テスト等を、毎年定点観測的に行うとともに結果を分析し、生徒の課題に応じた指導を組織的に行う。
- イ) 学年+1時間の家庭学習を促し、フォローする授業づくりを通して、家庭での学習習慣を身につけさせる。
- ウ) 土曜日や放課後等の講習を充実し、生徒が自己の学習状況や進路希望に合わせて講座を選択できるようにする。
また、講習のある土曜を有効に活用し、進学相談、勉強方法の相談、質問、週末の自習等の機会とする。
- エ) スマスク端末とスタディサプリ等の外部学習コンテンツ等を活用し、自学自習できる生徒を育成する。
- オ) スマスク端末等を活用して生徒に自己の学習を振り返り、調整する力を身につける。

(2) 進路指導

① 目標

計画的で組織的な進路指導を充実し、より高い目標の進路実現を図る。各大学等の情報を提供し、生徒が「行きたい大学」を見つけられるよう支援する。

② 方策

ア 計画的な進路指導の充実

模試の結果等を教員が分析し、そのデータを生かした継続的な指導を徹底する。模試分析会（教員向け、生徒向け）、面接、出願検討会、ケース会議等を行い活用する。

イ 学習機会の充実

- ア) 自習スペースの活用や朝学習、放課後勉強会等、学校での学習環境及び機会を整える。その際、学力向上推進校予算により、ティーチングアシスタントを活用する。
- イ) 部活動単位の学習会等、集団で学習に取り組む雰囲気醸成する。
- ウ) 長期休業期間中や放課後の講習では生徒の学力に応じた学習をさせる。
- エ) 2学期期末考査後、3年生を対象に特別講座（進学・教養）を実施する。

ウ 学校推薦型選抜や総合型選抜への対応を計画的、組織的に行う。

- ・大学・予備校等が主催する入試説明会に積極的に参加して情報収集を行い、進路指導力を高める。
- ・進路指導部を中心に面接や小論文指導を全教員体制で行う。

エ 大学入試における総合型選抜への対応

探究的な学習の成果を以って総合型選抜に堪えうる総合的な学力を身に付けさせるため、「総合的な探究の時間」、「人間と社会」の学習内容と指導方法を検討し、TIPS-type4を活用して地域と連携して充実した探究活動を行う。

オ キャリア教育の充実

- ア) LHRや進路講演会等の行事を通じて将来働くことの意味や生き方を考えさせる。
- イ) 自己理解を深め、早期に自己の在り方・生き方への目標をもたせる。

(3) 生活指導

① 目標

規律ある学校生活を指導し、自主的な生徒の活動を推進する。

② 方策

ア 規律指導の徹底

- ア) SNS紅葉川ルールに基づく適正な使い方を促し、SNSによる問題行動を未然に防ぐ。スマスク端末活用ルールを各自設定させ、徹底できるよう指導する。
- イ) 年間3回SOSの出し方に関する授業といじめアンケートを実施する。アンケートの結果、いじめが疑われる回答があれば「いじめ対策委員会」メンバーで対応を検討し、未然防止、早期発見及び早期対応に結びつける。

イ 美化活動

- ア) 日常的な美化活動を通じて、物を大切にする意識をもたせ、校舎内の環境整備を進める。

(4) 特別活動

① 目標

異なる意見をもつ者同士が行事や部活動の目標の実現に向けて、他者の話をよく聞き、自らも伝えながら、協力し、やり遂げる経験を通して、人間関係調整能力、自己肯定感、主体性を高める。学校行事や部活動への参加を通して学校への帰属意識を持たせ、「全体のために何ができるか」を考える人材を育成する。

② 方策

ア 学校行事

体育祭・文化祭・合唱コンクール等学校行事では、実行委員会を中心として生徒が主体的に活動する機会を多く設定する。

イ 部活動

- ア) 安全を管理するとともに、生徒の自主的な活動を支援し、コミュニケーション能力とリーダーシップ・フォローシップを育む。
- イ) 「部活動動改革及び地域クラブ活動の推進等に関する総合的なガイドライン（令和8年3月）東京都教育委員会」にのっとり、練習内容や練習計画を見直し、効果的かつ効率的な活動を行う。
- ウ) 部活動指導員・外部指導員を活用し、専門性の高い指導で技能の向上を図るとともに教員の負担軽減を目指す。

ウ 地域との交流活動の活発化

- ア) 地域行事の参加や施設等での手伝いを通じて、地域との交流を図り、特別支援学校や小中学校との交流活動を行う。

エ 国際理解教育の推進

- ア) 「海外学校間交流推進校」事業を通じて、英語圏に限定せずに海外の学校と交流を行い、リンガ・フランカ（母語が異なる人々の間で意思疎通のために用いられる共通語）としての英語を学習する意欲を引き出す。
- イ) 青森大学との連携の中で留学生等との交流を行い、国際感覚を育て、多文化理解を推進する。

(5) 学校経営

① 目標

社会の変化や要望に対応した教育活動を組織的にを行い、生徒が自己の成長を感じることができる学校とする。また、生徒の状況を把握して合理的配慮を行う等、誰一人取り残さない体制を整え、必要な支援を行う。

また、生徒の安全で安心な学校生活を支える教職員自身のライフ・ワークバランスの実現を図る。

② 方策

ア 人材育成

- ア) 職に応じた業務を担当する中で、能力開発を行う。行事等を実施した後は、生徒・教職員対象のアンケート等を行い、課題を明らかにする。
- イ) 主幹教諭、主任教諭から教諭等への指導を徹底する。

イ 効率的な職務遂行のための業務の見直し

- ア) 会議時間は50分を上限とする。
- イ) 起案文書の電子化の徹底を図る。

ウ 勤務時間外の在校時間を減らす

部活動で部活動指導員等を活用し、引率や指導を必要最少の人数で行い、ライフ・ワークバランスを確保する。週1日の、全教職員午後5時台帰宅を目指す。

エ 服務事故防止に努め、信頼される学校をつくる。

- ア) 答案や成績資料、調査書、奨学金、就学支援金等の個人情報の取り扱いは、規程を遵守する。
- イ) 部費の管理を規程に基づき適切に行う。私費会計帳簿は月に1度複数の顧問で確認し、学期に一度管理職の確認を受ける。
- ウ) 服務事故防止研修を年間2回以上開催するなど、体罰・暴言等信用失墜行為を未然に防止し、服務事故ゼロとする。

オ 適正な予算執行と施設管理の徹底

- ア) 会計処理は、正確かつ迅速に行う。
- イ) 授業料や学校徴収金の管理を丁寧・迅速に行う。
- ウ) 施設の破損や老朽化による不調は速やかに対応するとともに、老朽化した敷地内のリノベーションを進めて、来客を温かく迎え、在校生が誇れる校内環境を整備する。

(6) 募集・広報活動

① 目標

教務部総務部門と募集対策委員会が連携し、組織的な広報活動を全ての教職員で行い、本校の特色を中学生及びその保護者に広く周知する。

② 方策

ア 情報発信の強化

- ア) ホームページ等のリニューアルと更新頻度の向上。
 - ・行事や集会、部活動の取り組み等生徒の日常の様子を実施後7日以内に掲載する。
- イ) 保護者への情報発信
 - ・保護者コミュニケーションシステムClassi 東京都版を活用し、保護者との情報共有を円滑にする。

イ 募集対策の強化

- ア) 中学校及び学習塾への訪問を必要に応じて教職員で行う。また、生徒には高校生活の様子を報告させるため、出身中学校や学習塾を訪問させる。

- い) 学校説明会や授業公開を年間6回実施し、行事や説明会等への参加者数のべ4000人を目指す。
 う) 部活動見学会の実施や、地域行事への参加を通じて、江戸川区内の中学生に本校生徒の美点を印象づける。

(7) 安全・防災・健康教育

① 目標

心身にわたる健康増進と安全に対して、自ら考え、行動する力を育成する。

② 方策

ア 防災訓練

避難訓練、防災訓練を年間4回実施し、災害時における初期の基本動作を身につけさせる。

また、江戸川区、消防署及び地域と連携した防災教育を推進する。

イ 交通事故防止

セーフティー教室や朝の登校指導等で自転車の乗り方指導を行うとともに、自転車保険へ加入させる。また、全校生徒のヘルメット着用の徹底をすすめて自転車安全教育を推進する。

ウ 健康管理及び教育相談

ア) 教育相談委員会が中心となり、生徒の心理面の健康を保持、増進する。生徒に関する情報を共有するとともに、問題の解決に当たる。

イ) 教育相談センターや専門医派遣事業等を活用するとともに、SOSの出し方を年3回以上伝える。

う) 生涯スポーツの観点をもって体育健康教育を実践し、運動やスポーツとの多様な関わりを通して、健康で活力に満ちた生活をデザインする資質・能力を育成する。また、これにより生徒の体力の向上を目指す。

エ 感染症対策

地域の感染症流行状況を把握し、手洗い・うがい等が基本的な生活習慣として定着するよう指導する。また、感染症発生の場合は、保健所、学校経営支援センター、学校健康推進課と連携をして、流行の拡大を防ぐ。

(8) 数値目標

① 学校運営連絡協議会が行う学校評価における数値目標

項 目	目標値	令和5年度	令和6年度
ア 生徒の本校に対する満足度	90%	87%	85%
イ 生徒の授業に対する満足度	90%	88%	85%
ウ 生徒の進路指導に対する満足度	90%	82%	89%
エ 生徒の行事に対する満足度	90%	89%	88%
オ 生徒の部活動に対する満足度	90%	90%	88%

② 生徒が希望する進路実現を果たすべく進路結果を数値目標として設定する。(現役生徒)

項 目	目標値	令和5年度	令和6年度
ア 4年制大学進学率	70%	64%	64%
イ 日東駒専の合格者数	35名	34名	59名
ウ 国公立・早慶上智・GMARCH・理科大の合格者数	8名	5名	3名

③ 生徒募集対策の改善を図り、応募倍率の向上を目指す。

項 目	目標値	令和5年度	令和6年度
ア 推薦による入選の応募倍率(男女平均)	3.8倍	2.89倍	2.67倍
イ 学力検査による入選の応募倍率(男女平均)	1.6倍	1.50倍	1.10倍

④ 生徒の毎日の生活行動から、学校生活への取組状況及び指導の成果を把握する。

項 目	目標値	令和5年度	令和6年度
ア 1・2学年家庭学習時間：平日1時間以上の割合 (第2回スタディサポート結果)	50%	1年18.3%	1年29.9%
		2年13.1%	2年18.9%
イ 部活動加入率(10月1日時点)	90%	88%	87.8%